

千代田まちづくり サポート通信

2025 OCTOBER ISSUE No.44

2025
10

OCTOBER



第25回 千代田まちづくりサポート 公開審査会



〔目次〕

- P1 事業説明
- P2 募集概要等
- P3 ~ 16 応募グループ活動発表概要
質疑応答等
- P17 審査会委員講評
- P18 フォトアルバム

まちづくり活動を 支援しています。

ウェブサイト
QRコード



Chiyo da No Machisapo



千代田まちづくりサポート（まちサポ）は、
現在、将来にわたって千代田区を活気ある、住みよい魅力的なまちにしようとする
市民の自主的で主体的なまちづくり活動を応援し助成する事業です。
この提案型まちづくりを支援する仕組みを通じて、多様な立場の人々が地域のまちづくりに参画し、
つながり合いながら「信頼し合える地域社会」を形作っていくことを目指します。

事業見直しにより一時募集を休止していましたが、
募集を再開し、令和7年7月27日（日）に公開審査会を開催しました。
本誌では、その審査会の様子をお届けします。
まちづくり活動にご興味を持っていただけると幸いです。

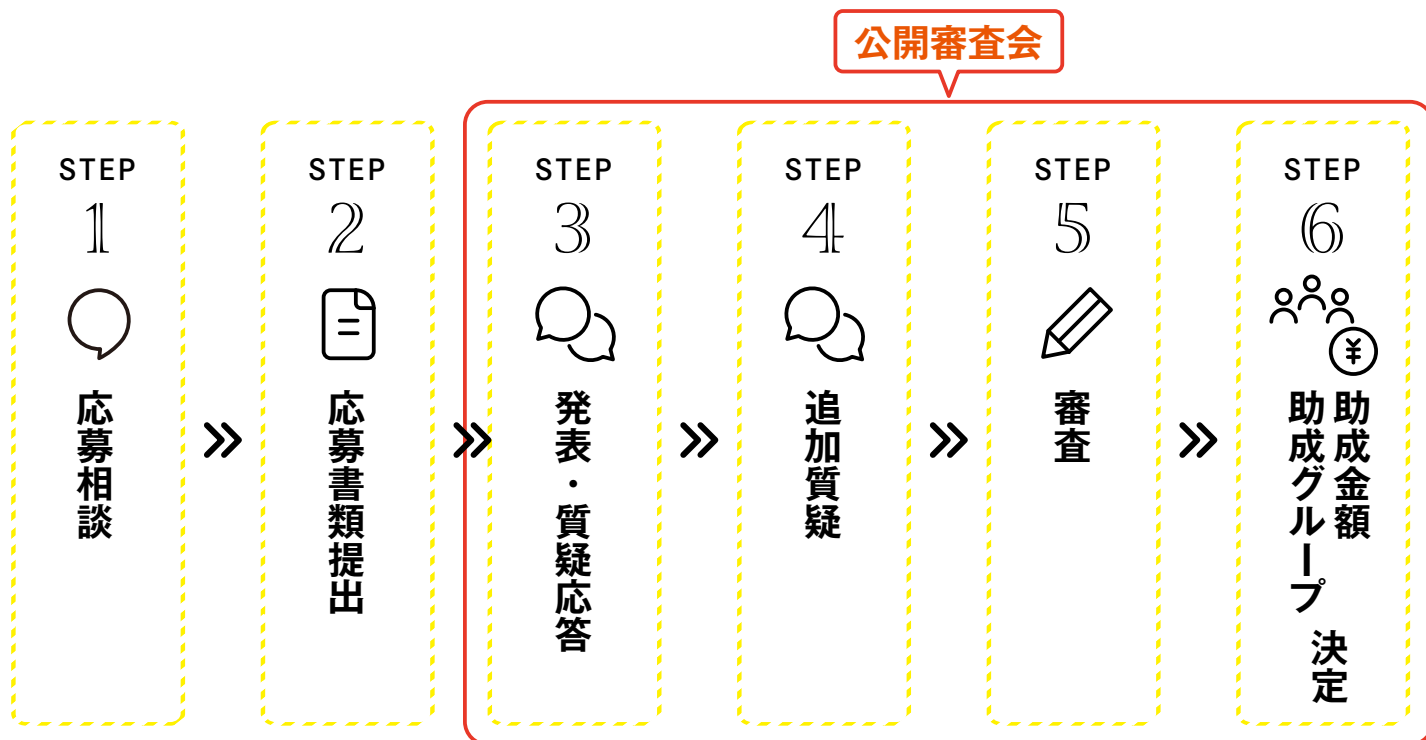
なお、これまで発行してきた「サポート通信」は、
財団ウェブサイトでご覧いただけます。
ぜひ、ご一読ください。

まちサポ応援
キャラクター
「ちよすけ」



Process

一般部門（公開審査会）助成決定までのプロセス



第25回千代田まちづくりサポート 公開審査会

[開催日] 令和7年7月27日（日）
[会 場] ちよだプラットフォームスクエア5階
[応募グループ数] はじめて部門4グループ、一般部門10グループ



[募集概要]

	はじめて部門	一般部門
対象活動	まちづくり活動が始めるに際して、学習や調査、試行的取組み、初動の仲間作りなどに対する助成	継続して自立を目指すまちづくり活動に対する助成
助成額	一律5万円	5～50万円（第25回助成総額300万円） ※助成額については、助成総額の範囲内で審査会により決定する。
助成年限	1年間のみ	最長3年間
審査方法	書類審査	公開審査

審査方法

(1) はじめて部門

公開審査前の事前審査により助成対象グループを選定し、活動内容の発表をもって助成決定とします。公開審査会に欠席した場合は、助成決定を取り消します。

(2) 一般部門

審査会委員8名による公開審査を通じて、助成対象グループを決定します。事前の書類審査および公開審査会での発表・質疑応答を経て、審査基準の各項目について5段階評価を行い、合計点が120点以上のグループを助成対象とします。

なお、評価点が120点に満たない場合は助成対象となりませんが、80点以上を獲得したグループのうち、上位2グループには、一律5万円の「トライアルコース」を選択できる制度を新設しています。

審査基準

(1) はじめて部門

- 地域のまちづくりについて意欲が感じられるか、新しい視点があるか
- (2) 一般部門
- ① 市民の主体性・自主性が発揮され、グループとしての熱意が感じられるか
 - ② 魅力的な都市環境づくりに向けて意義ある活動であるか
 - ③ 地域コミュニティの活性化に向けて意義のある活動であるか
 - ④ 助成の効果的な使い方が意識され、説得力ある活動計画になっているか
 - ⑤ 市民ならではの新しい視点や斬新な取り組みが企画されているか
- ※2年目、3年目の活動内容についてもこの基準の中で継続性などを判断します。

第25回 千代田まちづくりサポート公開審査会 審査結果

部門	グループ名	助成回数	審査基準（各40点満点）					合計点数 (200点満点)	助成可否	助成割合	助成対象額 (万円)	助成決定額 (万円)	頁
			市民の主体性・自主性が発揮され、グループとしての熱意が感じられるか	魅力的な都市環境づくりに向けて意義ある活動であるか	地域コミュニティの活性化に向けて意義ある活動であるか	助成の効果的な使い方が意識され、説得力ある活動計画になっているか	市民ならではの新しい視点や斬新な取り組みが企画されているか						
一般	一般社団法人D&A Networks	1	40	38	39	38	38	193	助成決定	100%	22.8	22.8	10
	ちよだん	2	40	37	39	38	39	193	助成決定	100%	50	50.0	7
	ふらっと神保町	1	39	38	34	37	37	185	助成決定	92%	25.6	23.6	11
	一般社団法人ちよママ	3	38	35	36	33	34	176	助成決定	82%	50	41.0	4
	神田でパンダ	3	37	32	35	31	33	168	助成決定	82%	50	41.0	3
	神田ブレイスメイキング実行委員会	1	32	33	34	29	30	158	助成決定	82%	49	40.2	9
	すなっくちよだ	2	33	27	28	24	29	141	助成決定	72%	16	11.5	6
	番町ファミリーハウス事務局	1	31	27	29	26	28	141	助成決定	72%	46.5	33.5	12
	JIU ゲームフィ研究会	1	31	29	22	24	26	132	助成決定	72%	50	36.0	8
はじめて	まちづくり・地域政策研究会	2	21	22	17	16	21	97	トライアル		15	5	5
	ジェンダー eye	—							助成決定		5.0	5.0	13
	サードキッチンちよだ	—							助成決定		5.0	5.0	14
	番町LOVER'S	—							助成決定		5.0	5.0	15
	安井建築設計事務所音楽サークル	—							助成決定		5.0	5.0	16

神田でパンダ

神田のまちをパンダで
盛り上げよう



【代表者】石垣 曜子 【主な活動地域（場所）】 神田地域

活動概要

パンダのキャラクターを通じてユーモアと笑いを取り入れながら、神田の地域活性化を目指し、神田錦町の「キンキン広場」を拠点に、町会の枠を越えたつながりづくりや「神田らしさ」の再発見を促す活動を展開しています。神輿山車をモチーフにしたキャラクター「パンダ明珍」が地域イベントに出没し、まちの人々をつなぐ存在として親しまれています。

発表概要

2020年・2021年の2年間、初動期の助成を受けて活動してきましたが、今年、3年目として、再びこの場に「神田でパンダ」が戻ってきました！

コロナ禍で地域とのつながりが希薄になっていた2020年、地元住民や企業などが一体となって、神田のまちを盛り上げたいという思いから、有志で立ち上げたグループです。パンダのキャラクターをつなぎ役として、ユーモアや遊び心を取り入れながら、神田のまちを盛り上げています。

「神田なのに、なぜパンダ？」とよく質問を受けます。パンダといえば上野のイメージですが、わざわざ見に行く人がいるほど人気があり、誰からも親しまれやすく、不思議な魅力を持つキャラクターです。また、神田錦町には「キンキン広場」という、パンダのオブジェがぽつんと佇む広場があり、餅つき大会やラジオ体操など、地域をつなぐような役割を果たしています。このユニークな光景がテレビ番組『珍百景』でも紹介され、SNSでも話題となり、外国人観光客の注目も集めています。

こうした背景から、パンダは地域をつなぐキャラクターになり得ると考えています。今年は上野のパンダ返還のニュースもあり、「神田のパンダの時代が来た」と感じています。活動範囲は神田警察通りを囲んだ神田公園地区で、マンション住民と地域住民との交流や「神田らしさ」を考える場として、「キンキン広場」を活用します。

町会の枠を越えて、地域全体を見直すきっかけをつくるのが目的です。これまでに、キャラクター投票企画を実施し、神輿山車をモチーフにした「パンダ明珍」というキャラクターを制作し、地域のイベントに「出張」するかたちで活動してきました。

今年は秋の「パンダの日」に便乗したお祭りや、地域の縁日やイベントに「パンダ明珍」を出没させる予定です。また、地域の店舗にパンダの飴を設置してもらう取り組みも進め、「動く珍名所」として、いろいろな地域に活動を広げていきたいです。

カンタ...パンダ



X



Instagram



Comment



委員 千代田区で「パンダ」を通じた活動を行う意義について、教えてください。

助成グループ 「パンダ」は地域の方々や学生にとって親しみやすく、自然と関わりたくなるような雰囲気を持っています。神田の歴史や空気感に寄り添いながら、あえて「ちょっと違う存在」であるパンダを取り入れることで、新しい関わり方や風を生み出せると考えています。実際に「パンダ明珍」がさまざまな場所に出没する中で、その可能性を実感しています。

委員 今年の活動方針と卒業後の活動の構想について教えてください。

助成グループ 「パンダを通じて地域を盛り上げる」という基本方針は変わりません。パンダの山車も様々なイベントに参加し、地域とのつながりが広がっています。今年は助成金を活用してパンダの飴を配布し、地域のお店とのネットワークづくりを進めていき、卒業後は、飴の販売委託や「パンダ明珍」の貸出、グッズ販売などを通じて資金調達を行い、継続的に運営できる仕組みの構築を目指します。

委員 「キンキン広場」のパンダについて、今後の展開はありますか。

助成グループ 広場のパンダは、ぽつんと佇む姿が魅力です。神田のまちには他にもパンダの置物が点在しており、まち歩きの中で、さまざまなパンダに出会えるような仕掛けを通じて、盛り上げていきたいと考えています。

委員 今後、どのような組織形態を検討していますか。

助成グループ 企業・学生・住民との連携を強化しながら、将来的には社会法人化を視野に、活動を安定的かつ継続的に行える体制づくりを目指します。

委員 協力者の活動内容と「協力者50名」の実現性を教えてください。

助成グループ 企業は資金協賛を、デザイナーはキャラクターやチラシ製作を担当していただいています。人づてや紹介を通じて接点を持ち、面談を重ねながら協力を得ています。「協力者50名」という目標は、希望を込めた数字ですが、努力次第で実現可能だと考えています。

委員 麹町方面にも活動の範囲を広げていただくことは可能ですか。

助成グループ はい、もちろん可能です。「パンダの力」が必要な場には、喜んで伺います。

委員 チラシ3,000部は配布可能ですか。

助成グループ 地域の学校や町会を通じて配布してきた実績があり、問題なく配布できる見込みです。

一般社団法人ちよママ

SNSを活用した 千代田区の子育て情報発信および、 子育て世代のネットワークづくり

【代表者】勝連 万智 【主な活動地域（場所）】 千代田区全域



活動概要

千代田区で子育て世帯のつながりづくりを目的に活動するグループです。地域イベントやSNSを通じて、子育てに役立つ情報を発信し、交流の場を提供しています。現在は情報配信の充実や収益化を進めながら、地域課題の解決にも取り組んでいます。



発表概要

2014年に千代田区で発足した子育て支援を行う任意団体で、2025年で活動12年目を迎えます。第一子出産をきっかけに、ママ同士が利害を超えて友人関係を築ける場をつくりたいという思いから、ママサークルとしてスタートしました。2020年に法人化し、現在は第5期目の活動中です。地域密着型イベントやSNSによる情報発信を通じて、子育て世帯が地域に根付き、つながるきっかけづくりを提供してきました。運営メンバーはすべてボランティアで、千代田区在住のパパ・ママが、仕事と両立しながら地域の子育てを支えたいという思いで活動しています。

当初は、イベント中心でしたが、コロナ禍を機に「子育て情報の配信事業」を開始しました。千代田区では、行政のDX（デジタルトランスフォーメーション）が進む一方、子育てに関する情報が分散し、タイムリーに必要な情報が適切な人に届きにくいという課題があります。加えて、毎年約1万人が転入し、約7,000人が転出するという高い流動性があり、0～9歳の子どもを持つ世帯は約4,000～5,000世帯と限られています。こうした背景のなか、「はじめまして」で千代田区に住むことになった子育て世帯が、地域にどう馴染み、必要な情報を得ていくかは大きな課題です。

そのため、地域住民・行政・企業が円滑に情報交換できる仕組みをつくり、誰もが平等に情報を得られる機会を創出することを目指しています。これまでInstagramやLINE Businessなどを活用し、イベントや施設情報を発信してきました。助成を受けた過去2年

間でフォロワー数は倍増し、区内の子育て世帯の20%～40%にリーチするメディアへと成長しました。

これまでの2年間は情報発信の土台づくりに重点を置いて取り組んできました。今年度は、安定運営を継続しつつ、地域との連携をさらに強化していきたいと考えています。地域の声を拾い、必要な情報を的確に届ける仕組みづくりや、クーポン配布・広告掲載による収益化も検討します。行政との連携も深め、地域の課題や声を行政に届けるような取り組みも進めていきたいと考えています。



Instagram



区内のあそび場やイベント
を定期的に配信中

LINE配信



毎週金曜日に週末の
お出かけ情報を配信中

Comment



委員 千代田区社会福祉協議会（社協）の助成と今回の申請内容との違いを教えてください。

助成グループ 社協からは「子育て世帯向けイベント開催」として助成を受け、月1回、決まった会場で子育てサロンを実施しています。今回のまちサポ助成は、SNSを活用した情報発信が中心で、性質が異なります。

委員 防災発信を活動に取り入れた理由を教えてください。

助成グループ 区民に役立つ情報として、「防災」が重要との声がありました。帰宅困難者や子どもを含む避難行動など、地域で共有すべき課題があると感じ、活動に取り入れたいと考えました。

委員 収益化と来年度の目標を教えてください。

助成グループ LINE配信枠を活用した広告収入や、イベント情報の有料掲載を検討中です。商店とのクーポン連携や参加費制イベント、Instagram動画配信による収益化も視野に入れています。来年度は、行政との連携による動画作成に加え、公募でママメンバーを増やし、配信の量と質の向上を目指します。

委員 発信方法等を指導していますか。

助成グループ 動画作成講座を開催しましたが、参加者のレベル差に課題がありました。今年度は、ちよママが現場に伺って撮影・投稿する形に変更し、掲載希望者を誘発できる工夫をしています。

委員 運営メンバー体制などを教えてください。

助成グループ ライフステージの変化に対応するため、配信メンバーは毎年公募で入替えています。常にフレッシュで共感性の高い情報発信を目指しています。

委員 育休中の方がお手伝いされるとのことですが、子育てを終えた方との関係はありますか。

助成グループ 子育てを終えた方がイベントのフォローに入ってくださる可能性はありますが、SNS発信にはスキルが必要なため、主に子育て中の方が中心になると思います。学生との協働も検討中です。

まちづくり・地域政策研究会

麴町を “麴の町”にするプロジェクト

【代表者】 井澤 和貴 【主な活動地域（場所）】 麴町地域

活動概要

地域の歴史や文化を学ぶ活動を通じ、まちづくりにつながる活動を行うグループです。

千代田区麴町の地名や歴史に着目し、“麴”をテーマに、街歩きやワークショップを開催します。活動を通じて、人の流れを生み出し、地域とのつながりを育むことを目指します。

発表概要

1年ぶりに活動を再開します。私たちは、法政大学大学院でまちづくりを専攻した修了生を中心に構成されたグループです。

2022年には、「はじめて部門」で「坂の紹介マップ」を作成しました。翌2023年には「一般部門」で、「麴町で学ぶ「麴」の力～万能調味料の醤油麴を作りましょう～」というワークショップを開催しました。参加者は少人数でしたが、アンケートでは高い評価をいただきました。2024年は、活動を休止していましたが、2025年は、「麴町を「麴の町」にするプロジェクト」をさらに発展させます。

千代田区の中でも人の流れが少ないとされる麴町エリアに着目し、新たな人の流れを生み出すことを目的としています。法政大学からも近く、地理的にも活動しやすい場所です。また、“麴”という地名を持つ麴町の歴史や特徴を掘り起こすことで、まちの魅力を再発見したいと考えています。地名の由来については、「麴問屋があった」「国府街道の江戸の出入口「国府路（こうじ）」であった」など、諸説あります。

具体的な企画としては、「知って楽しい、食べておいしい、麴町ツアー（仮）」と題した街歩きイベントを開催します。基本的な企画の検討や運営はグループで行い、参加者への手土産となる麴を使った菓子については、2023年のワークショップでもご協力いただいた、静岡市で空き家を活用し「麴」をテーマにしたカフェ「宙（SORA）」を運営している柴田弘美さんに再びご協力いただく予定です。この手土産の袋のデザインや装飾は、グループメンバーが担当します。今回も参加者の方にアンケートを実施し、外部の視点を取り入れることで、今後の活動に活かしていきたいと考えています。

活動スケジュールとしては、10月頃から麴町エリアの現地調査を開始し、11月下旬には静岡を訪問して「宙（SORA）」の柴田さんからまちづくりに関するお話を伺いながら、手土産の準備を進めます。12月上旬に街歩きイベントを開催し、その後、活動の振り返りと次期活動の検討を行っていく予定です。



【活動実績】

2022年度

・千代田区 坂の紹介マップ 作成
（はじめて部門の助成を得て、実施）

2023年度

・ワークショップ

「麴町で学ぶ「麴」の力～万能調味料の
醤油麴を作りましょう～」実施

日程：2024年1月20日（土）来場者：4名
（一般部門の助成を得て、実施）

Comment



委員 街歩きの目的と麴町との関係づくりについて教えてください。

助成グループ 8月には街歩きツアーの下見を行い、歩くスピードを確認しながら「麴町」の地名の由来や歴史を深掘りします。参加者が興味を持ちそうなポイントも探りつつ、地域の方との接点を意識します。前は麴作りと地域テーマの焦点が曖昧だった反省から、今回は文化や歴史に改めて焦点を当て、活動と両立できる内容にしています。

委員 麴町と麴をテーマにした理由を教えてください。

助成グループ 「麴町×麴」というインパクトのあるダジャレに注目したことがきっかけです。麴問屋があったという説もありますが、静岡の麴カフェの方との交流を通じて、活動を広げつつ地域に還元できる可能性を感じました。

委員 イベント運営や静岡訪問について教えてください。

助成グループ 一昨年は講師の方に来ていただきましたが、今回は講師なしでも、メンバーの企画力と魅力でイベントを成立させたいと考えています。ただし、街歩きツアーに講師が参加し、麴の魅力を伝える形であれば、地域還元と活動の両立が可能だと思います。静岡訪問については、3名程度で1回を予定しており、現地で手土産を作成するため、オンライン対応は難しいです。

委員 まちづくりの目的と今後の展望について教えてください。

助成グループ 地域の歴史や文化の発掘を目的としています。前回の活動を通じて「健康まちづくり」の視点も重要だと感じました。現在この2つを軸に、地域に求められる活動を見極めたいと考えています。将来的には、麴を使った製品を開発・販売することで、活動を持続可能な形で広げていきたいです。

※助成は決定されましたが、後日辞退となりました。

04

すなっくちよだ

サードプレイスのような
誰でも参加できる居場所づくり

【代表者】 鍛 紗弥佳 【主な活動地域（場所）】 千代田区全域



活動概要

地域に暮らす方や働く方がふらっと立ち寄り、安心して過ごせる「もうひとつの居場所」を作ることを目的に活動しています。千代田区内の飲食店やスナックなどを1日貸切り、参加者同士のつながりを育んでいます。「誰かのまちの、もうひとつのサードプレイスづくり」を後押しできるような存在を目指します。

発表概要

「すなっくちよだ」は、千代田区のプロジェクト「千代田をつくる女性30人（2022年度）」から立ち上げたグループです。コロナ禍をきっかけに、地域に貢献したい人々が集まり、「しづらみなく気軽にフランクに話し合える場がほしい」という声から、自分たちが「行きたい・やりたい」と考えるサービスとしてスナック形式のイベントが生まれました。

2023年からこれまでに6回開催し、延べ約170名の方々にご参加いただきました。4回以上参加されている常連の方もおり、新たなお客様を連れて来てくださるなど、コミュニティの広がりを実感しています。SNSを見ていらした方も増えています。

イベントでは、千代田区内の飲食店やスナックなどを1日貸切り、「すなっくちよだ」を1日限定でオープンしています。通常は大人向けの空間ですが、開店日は禁煙とし、子どもも楽しめる場にしています。カラオケを通じて親子で楽しんだり、他の参加者やメンバーと交流したりと、普段接点のない人同士がつながる機会となっています。

スナック形式だからこそ、普段は言いづらいもやもやを気軽に話せたり、何気ない一言に背中を押されたりすることもあります。地域の美味しいお店や子どもの学校や習い事に関する情報も自然と集まり、一人ひとりが少しだけハッピーになれるような関係性が生まれています。

年2～3回の開店を予定しており、2025年2月に開店しています。次回の開店を心待ちにする声も多く寄せられていますが、メンバーも仕事や家庭を持つ忙しい中で活動をしているため、メンバー同士の日程調整が難しいという課題があります。そのため、今後の継続的な運営には、メンバーの増員や組織体制の強化が必要と考え、まちサポ助成に応募しました。

次回開店は秋ごろを予定しています。これまで続けてこられたのは、常連さんや参加者のみなさんのおかげです。今後も皆様のご協力をいただきながら、地域に根ざした活動を続けていきたいと考えています。



Comment



委員 「まちの余白」や「資源としての空間」とは何ですか。また、運営の工夫やアンケート状況も教えてください。

助成グループ 既存の場所を新しい形で活用し、「余白的な空間」を生み出すことを目指しています。今後はこの考え方をより明確にし、地域との関係性を深めていきたいです。初めてのママでも会話やお酒の提供を通じて自然なコミュニケーションを育んでいます。マニュアルなしで情報共有しながら運営していますが、今後は「ママ感」を言語化し、組織的に展開できるよう体制づくりを進めていきます。アンケートはこれまで未実施ですが、今後の改善点として認識しています。

委員 来店者が参加したきっかけを教えてください。

助成グループ メンバーの知人や仕事関係が中心ですが、地域の方にも声をかけています。これまでの傾向では男性客が多い印象です。近くの小学校から学校帰りに立ち寄る方や、ふらっと訪れる方もおり、「すなっくちよだ」という名前に惹かれて来られるケースもあります。

委員 占い師など、第三者が入ることで新たな交流が生まれるのは皆さんのオリジナリティで、今後も独自のスタイルを築いていくことが強みになると思います。

助成グループ 占い師の参加によって新しい話題が生まれ、反響も良好でした。コミュニケーションのきっかけとして有効だと感じており、今後は職人さんなどを招いたテーマ性のあるイベントも検討しています。

委員 新たな千代田らしい資源や人との掛け合わせで、一歩進んだ発展イメージはありますか。

助成グループ これまで区役所のカフェや、歴史あるスナックなどで開催してきました。活動を通じて地元のお店との関係も広がり、開催場所の提案もいただいています。安全面なども考慮しながら、現在は優美堂さんなど新しい場所での開催も検討しています。

委員 収支計画書の参加費@2,000×20名の根拠を教えてください。また、参加費に飲食代は含まれますか。

助成グループ 1回10名×2回で計20名と控えめに見積もっています。参加費には会場費・ワンドリンク・おつまみが含まれ、追加の飲食はキャッシュオンです。

委員 開催頻度は年2回が適切ですか。課題はありますか。

助成グループ 現体制では年2～3回が適切だと感じています。メンバーも参加費を支払っているため、回数が増えると負担が大きくなります。特に人材面の体制作りが課題です。

05 ちよダン



ちよだの合言葉となる 「区歌ダンス」を踊って、つながろう

【代表者】 野口 幸代 【主な活動地域（場所）】 千代田区全域

活動概要

千代田に関わる人たちがダンスを通じてつながり、いざという時に助け合える関係を育む「まちづくり」の活動を行っています。千代田区にとって親しみやすい「千代田区歌」をダンスに取り入れることで、ダンスが苦手な方でも気軽に参加できる機会を創出しています。

発表概要

「ちよダン」は、千代田区の「ちよ」と、ダンスの「ダン」、そして「団結」の意味を込めています。ダンスを通じてまちづくりを行い、いざという時“手を取り合って”助け合える関係性の構築を目指しています。この“手を取り合う”ことこそが、とても重要だと考えています。私自身、34年間ダンスに関わり、競技・指導・試験官など、様々な立場を経験してきました。ペアで踊るダンスには、「目と目」「手と手」「動きの一致」に深い可能性を感じて探求する中で、「まちづくり」という視点にたどり着きました。

「ちよダン」では、ダンス未経験者にも楽しさを伝え、地域の中で助け合える関係が生まれるような活動をしていきたいと思っています。また、「ちよダン」のダンスは、初対面の方同士でも心の距離が縮まり、つながりが生まれるようなダンスです。1年目は「はじめて部門」としてどんなダンスにするか話し合いながらスタートし、一般部門となった2年目には、千代田区歌には、千代田区をつなげる力があると感じ、「区歌ダンス」を制作しました。2026年度には、防災・防犯にも貢献できる活動へと発展させたいと考えています。今年度はまず、その目標に向け、千代田区内での認知度向上を目指します。

グループの特徴は、年齢・性別・役職を問わずフラットな関係性が築けること、そして千代田区を誇りに思う「千代田愛」を共有している点です。現在のメンバーは20名で、経験者は私ひとり。昨年度は、交流会6回で延べ53名、イベントには100名以上が参加しました。

これまでの2年間の経験を活かし、「ちよダン」の認知を広げるために、オリジナルグッズ（うちわ・のぼり）やホームページを制作します。また、活動の定着と“団結”を図るため、ユニフォーム（法被・ビブス）を作り、イベントでの存在感を高めていきます。さらに、千代田区全域への展開を目指し、地域ごとのリーダーを育て、ダンスを伝えていける仕組みづくりにも取り組みます。今後も月1回の定例交流会やコアメンバー会議を続けながら、さまざまなイベントに参加していく予定です。



Comment



委員 活動が広がっていますが、どのようにしてここまで成長されたのでしょうか。

助成グループ 地域イベントに積極的に参加し、活動を知ってもらうことを大切にしてきました。町会長さんなど地域の方の協力もあり、連携を通じて広がってきたと感じています。

委員 子どもたちがもっと関われる展開はありますか。

助成グループ 昨年度、ダンスDVDを作成しYouTubeでも配信しました。小学校などで踊ってもらい、千代田区歌が流れたときに自然と踊り出すような広がりを目指しています。

委員 どんな方がエリアーリーダーに向いていると考えていますか。

助成グループ ダンスを楽しみ、地域とのつながりを感じてい方をお願いしたいです。現在は麴町と富士見にリーダーがいます。

委員 小学校のお祭りをターゲットにするのはどうですか。

助成グループ お声掛けいただけるとありがたいです。この場を借りて営業活動になりますが、情報があればぜひ教えてください。貴重なご意見ありがとうございます。

委員 これまでの活動はどのように公表されていますか。

助成グループ これまでは紹介媒体がなかったため、今回の助成金でホームページを作成予定です。メンバーも増えてきたので、YouTubeやホームページの管理を分担しながら進めていきます。

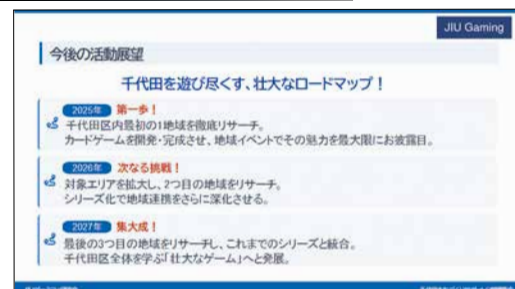
委員 TikTokなどSNS活用の予定はありますか。

助成グループ 今後の広報活動の一環として検討していきます。

JIUゲーミフィ研究会

千代田区のコミュニティをカードゲームで活性化

【代表者】 野呂 楓 【主な活動地域（場所）】 麹町地域



活動概要

千代田区の魅力を発掘し、カードゲームを通じて地域の人々をつなげるプロジェクトです。学生が地域を歩いて集めたリアルな情報をもとに、世帯をこえた交流のきっかけとなるゲームを制作し、地域資源を活かした「遊びながら学べるまちづくり」を目指します。

発表概要

千代田区のコミュニティをカードゲームで活性化させることをテーマに、城西国際大学メディア学部が主体となって、千代田区オリジナルのカードゲーム制作に取り組みます。日々メディアについて学ぶ学生が、地域そのものを「メディア」として捉える新しい視点から、ゲームづくりを進めていきます。

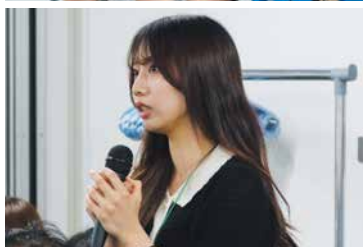
制作にあたっては、千代田区内の商店や地域資源に実際に足を運び、地域の方々との交流を通じて、千代田区の特徴や魅力を学びながら進めます。インターネットやAIで情報が簡単に手に入る時代だからこそ、現地での体験や人との対話を通じて得られる「生の声」を反映できることが、このカードゲームの大きな魅力です。

今回の活動には、カードゲーム「ワードスナイパー」の開発者・石上さんにもご協力いただきます。石上さんが栃木県で制作したゲームデザインフレームを活用し、名所や地域に愛されるお店の方の趣味など、多様な情報を盛り込んだカードゲームを目指します。印刷は、千代田区内の印刷所「萬印堂」と連携して進める予定です。

また、カードゲームの参加者に千代田区の多面的な魅力をより深く知ってもらうため、活動は1年で完結させるのではなく、3年間のスケジュールを組んで展開します。千代田区を大きく3つのエリアに分け、段階的に進めることで、最終的には千代田区全体を網羅できればと思っています。

大学がある平河町・永田町エリアはオフィスが多く、学生を含め地域とのつながりを求める方も多くいらっしゃいます。完成したゲームは、商店や千代田区の施設にお渡しし、世帯をこえた交流のきっかけとなるツールとして活用していただければと思っています。

このプロジェクトは、メディア学部の学生17名のほか、石上さん、そして専門的な知見を持つ城西国際大学の星野卓也教諭とともに進めていきます。カードゲームの完成をゴールとせず、地域交流会やワークショップなどを通じて、千代田区の魅力をより多くの方に知っていただけるような活動にしていきたいと考えています。



Comment



委員 活動体制と継続の仕組みについて教えてください。

助成グループ 城西国際大学メディア学部・星野卓也先生のゼミ生で構成され、代表は4年生、他は3年生です。活動テーマに賛同した学生による自主プロジェクトとして取り組んでいます。卒業後は次の代に代表を引き継ぎながら継続する予定で、千代田区を3つのエリアに分け、3年間で全域を網羅するカードゲームの制作を目指しています。

委員 ゲームを作ることが地域のまちづくりにどのように生きていくのかを教えてください。

助成グループ イベントなどを通じて、千代田の魅力や、地域のコミュニケーションを活性化させるツールとして活用します。ゲームを通じて街を歩いた気分になり、自然と地域を知るきっかけになります。

委員 「千代田区商店街連合会」との協力内容を教えてください。

助成グループ 星野先生と石上さんが訪問し、主旨を説明したところ、協力的な返答をいただきました。具体的な打合せはこれからです。

委員 地域への関わり方や諸謝金について教えてください。

助成グループ 普段通っているお店や交流のあった団体を中心にリサーチを進める予定です。ゲーム化講習は石上さんに講師を依頼し、学生が必要な知識を学びます。

委員 商店以外で検討している場所がありますか。

助成グループ 地域の団体やサービスも対象です。学校周辺から広げ、カードは30～50枚を目安に制作予定です。

委員 配布後の活用方法を教えてください。

助成グループ カードは販売せず、ワークショップの参加費で運営します。大学で開催する絵本イベントとのコラボや、子ども向けイベントと連携して活用していきます。

委員 千代田区の歴史・文化・人も対象とのことですが、1ヶ月では短い気がします。半年ほどかけて、専門の方の話も聞きながら進めるのが良いのでは？

助成グループ 学校周辺を歩くだけでも神社など、たくさんあるので、じっくり深くできればと思っています。

委員 参加動機をおしえてください。

助成グループ 静岡出身で千代田区にあまり詳しくなかったため、自分の足で歩きながら新しい価値観や世界観を知りたいと思いました。カードゲームを通じて、大人の方とも交流できる機会にもなればと考えています。

07

神田プレイスメイキング 実行委員会

神田の未来を描き、
共有し、実現へと向かう

〔代表者〕 渡部 裕樹 〔主な活動地域（場所）〕 神田錦町地域



神田プレイスメイキング実行委員会



活動概要

神田錦町周辺を対象に、地域の声を集めて将来像を描くワークショップを実施しています。集まった思いをイラスト化し、未来の神田像を共有することでつながりを広げます。

将来的には、描いた将来像を実現するための連携・調整組織の検討にもつなげていきます。

発表概要

神田プレイスメイキング実行委員会は、神田の道路や広場などの公共空間を活用し、人々の活動を促しながら、そこから生まれるつながりを育み、神田らしい賑わいと新たな文化の創出を目指して活動しています。メンバーについては、地元で働く方々、町会、大学関係者など、さまざまな立場の人々が連携して取り組んでいます。

実行委員会は約3年前に立ち上げ、地域の新しい縁日として「なんだかんだ」というイベントを2023年から9回ほど開催しています。神田の道路に約150量の車を置き、ダンスなど多彩な催しを行うユニークな取り組みを重ねてきました。第9回ではテレビ番組「アド街ック天国」にも取り上げられました。

一方で、資金面での課題が大きく、企業協賛やクラウドファンディングなどを活用しながらも、持ち出しが多い状況です。今後は地域の皆さんの思いを聞き、それをみんなの力で実現する方向へとシフトしたいと考え、今回応募させていただきました。

すでに始めている取り組みとして、7月4日の「神田錦町大歓迎会」では、参加者の「やりたいこと」を聞き取り、それをイラストに描き起こす「神田錦町の未来を描くワークショップ」を開催しました。約20個のアイデアが集まりましたが、当日参加者に限られるため、今後は町会や地域の皆さんの声も取り入れ、他のイベントでも展示・追加を行い、リーフレットにまとめて広く共有する予定です。

今年度はその準備段階とし、来年度以降は実現に向けて具体的なアクションを起こしていきます。より多くの人が連携できる仕組みを構築し、部分的な実現を積み重ねながら、神田エリアの雰囲気や人のつながりをさらに活性化させていきたいと考えています。



HP



Comment



委員 まちづくりに参加したくなるような、訴求力のあるリーフレットにするための工夫を教えてください。

助成グループ 「わかりやすさ」を重視し、言葉だけでなくイラストで思いや構想を誰にでも伝わる形に編集します。MAPは手書きイラストで、参加者が「やりたいこと」を書いて貼ることで、見る人との対話や共感生まれるよう工夫しています。リーフレットは、地域の声をもとにイラストを追加し、見せ方や構成にもこだわります。イラストは、活動への理解がある方に依頼予定で、ワークショップでご協力いただいています。

委員 手書きMAPをリーフレットにすることによる効果を教えてください。

助成グループ 制作過程で内容がブラッシュアップされ、地域の方との関係性が深まっていくことが何より重要だと、この場での意見交換で感じました。

委員 イベントでの意見収集や交流方法について教えてください。

助成グループ 町会の方々と関係者との座談会を予定しており、町会以外のグループとも、ミニワークショップ形式で交流することも検討していきたいです。

委員 MAPやリーフレットの配布方法、千代田区との関係について教えてください。

助成グループ MAPは常設展示ではなく、地域イベントなどで出張展示しています。今後は巡回展示も検討していきたいです。プロジェクトは任意団体による自主的な取り組みで、公的な枠組みに入れず、自由な発想を活かして地域のネットワークを通じて広がっていきます。

委員 これまでの活動実績や資金面について教えてください。

助成グループ ノウハウはありますが、資金力があるわけではなく、イベントの規模が大きくなる分、毎年赤字で開催しています。今回の応募は、これまでの活動をさらに広げ、多くの方の意見を取り入れたいという思いからです。町会や学校との連携に加え、新たな出会いや協力を通じて、皆さんの思いを冊子として共有する次のステップに進みたいと考えています。

一般社団法人 D & A Networks

食を通じたまちづくり
～子どもたちがブランドを作る！～

〔代表者〕 中田 弾 〔主な活動地域（場所）〕 麹町地域

活動概要

千代田区の子どもたちと共に食材を育て、それらを使ったオリジナルメニューを提案・販売することで、まちに笑顔と交流を広げる活動です。子どもたちの創造力と地域のつながりを生かした、持続可能なまちづくりの実現を目指して活動していきます。

発表概要

本日は、「食」を通じたまちづくりをテーマに、私たちの事業をご紹介します。私は大学生のころから20年以上、千代田区の子どもたちと関わる活動を続けてきました。地域の方々とまちづくりについて話す中で、大人だけでなく子どもたちの提案が反映される仕組みの必要性を感じてきました。そこで今回、子どもたちと千代田区で植物を育て、それを食材として活用したメニューを考案し、地域の皆さまに楽しんでいただくことで、まちに幸せの輪を広げる事業を提案します。

活動は5月から始まり、アマルフィファームさんで農園見学と収穫体験を行いました。収穫したものを私たちの法人が運営する施設「びかいち」に持ち帰り、子どもたちと一緒に「びかいちファーム」を作りました。

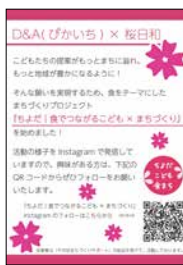
7月には「まちづくり説明会」を開催し、関心を持つ大学生たちを集め、説明会と学習会を実施しました。8月には不登校の子どもたちを支援する団体「Colorful LABO」さんと試食会を行い、提案の方向性を探ります。10月には麹町小学校で「麹町小学校ワーク・わく・クラブ」さんと提案会を開催し、地域の子どもたちと千代田区産食材を使ったメニューを考えます。

11月には、大妻女子大学「クリスマスマルシェ」で試行販売を行い、地域の皆さまの反応を伺う機会を設けます。年明けの1月には、千代田区役所10階「カフェ&バー桜日和」で販売を開始し、2月は「すなっくちよだ」さんとのコラボを通じて、地域の大人にも楽しんでいただき、ご意見を伺う機会を設けます。3月には、「Colorful LABO」さんの子どもたちに向けて、1年かけて練り上げたメニューを披露します。

この事業の目標は、子どもたちとの交流を通じて生まれた提案がまちで認知され、継続的な活動として根付き、事業化・収益化につ

ながる流れをつくることです。地域の声を聞き、課題を把握し、安定的かつ計画的に自走できる活動を展開していきます。

子どもたちの提案が「ちよだブランド」を育てる、新たな交流と活動のかたちを模索しながら、まちづくりに取り組んでまいります。



Instagram



Comment



委員 子どもたちのかかわり方や提案の流れについて教えてください。

助成グループ 「放課後等デイサービス びかいち」では、支援が必要な子どもたちが収穫体験や施設内での栽培活動に参加しています。また、8月に不登校の子どもたちとの試食会を行い、メニューの方向性を探ります。10月には麹町小学校で提案会を開き、「びかいちファーム」で育てた食材を使って子どもたちがメニューを考案します。調理や衛生管理などの専門的な助言には謝金を支払い、11月には「カフェ&バー桜日和」さんと協力して販売を予定しています。

委員 新たな取り組みのきっかけと、今後の展開について教えてください。

助成グループ 福祉事業を安定して継続するためには、国の制度に頼らず、自立した収益が必要だと感じました。子どもたちの「こんなまちがあったらいいな」という声を形にし、地域と子どもをつなぐ事業を展開することで、継続的な活動につなげたいと考えています。今後はメニューを増やし、活動費につながる仕組みを目指します。別事業として「びかいちカレー」の開発・販売も始めており、利益の一部を子どもたちの活動費に還元しています。将来的には、支援が必要な子どもたちが地域で働く場をつくることを目標に、2～3年かけて自立につながる仕組みを構築していきます。

委員 大学生の関わり方を教えてください。

助成グループ 子どもたちと関わるイベントに参加してもらいます。年齢に近い大学生が関わることで、子どもたちの発想力を引き出す効果も期待しています。私自身も学生時代に「まちサポ」に参加し、千代田区での経験をきっかけに、現在は子どもたちを支援する法人を運営しています。今後も大学生が地域や子どもたちと関わる機会を増やし、将来的な人材育成につながることを願っています。

委員 外部委託の内製化が難しいとのことですが、その理由を教えてください。

助成グループ SNSなどの発信に関する専門知識が団体内にないため、立ち上げ部分は経験のある方に委託します。9月以降は職員や学生向けに研修を行い、来年度以降は内製化する予定です。

委員 参加される学生さんからも一言お願いします。

助成グループ 事業が楽しく、子どもたちと一緒にこの事業を推進できればと思っています。

助成グループ 児童福祉を学ぶ中で、実際に子どもたちと関わることで理解を深めたいと思い、参加しました。



09

ふらっと神保町

「神保町の生活史」プロジェクト

【代表者】 中野 健太郎 【主な活動地域（場所）】 神保町地域



HP



活動実績・紹介



なぜ「神保町の生活史」なのか

生活史（生活史インタビュー）とは？

個人の人生の語り、ライフストーリーを聞き取ること。

「聞き手は必ずしも聞き手にはなれない」ということを意識し、

聞き手と聞き手の関係性を意識し、聞き手と聞き手の関係性を意識し、

聞き手と聞き手の関係性を意識し、聞き手と聞き手の関係性を意識し、

神保町の生活史

どのような人生を語るのか？神保町に生きるのか？

「語り手」は「今」を語り手とする。神保町という街の「今」を語り手とする。

語り手は、神保町に生きている人々、語り手、聞き手に生きている人々、語り手、聞き手に生きている人々。

活動概要

神保町に関わる人々の人生を聞き取り、記録することを目的に活動しています。個人の語りを集約することで、街の変化や日常のリアルな姿を浮かび上がらせ、多様な文化的背景を持つ神保町の“今”を、社会学的手法により丁寧に記録・発信していきます。

発表概要

「ふらっと神保町」は、2021年5月、私が大学4年生の時に立ち上げたグループです。神保町を拠点に、在野研究・文芸・創作活動に取り組む組織として活動しています。

これまでの活動実績としては、神保町ずずらんにあるシェア型書店「PASSAGE by ALL REVIEWS」の立ち上げに際し、クラウドファンディングプロジェクトのリーダーを務め、「ふらっと神保町」として協力しました。また、書店でのイベント開催として、神保町のジャズ喫茶でのトークイベントや、共立女子大学での講演なども行ってきました。

現在は新たな試みとして「神保町の生活史」プロジェクトに取り組んでいます。このプロジェクトの目的は、一言で言えば「神保町という街の“今”を記録すること」です。

神保町という街は、古書店・新刊書店・出版社が集まる“世界随一の本の街”としての位置付けにとどまらず、カレーや純喫茶、大学が集合している学生街、スポーツ用品街、中華街など、多様な背景と歴史を持つ街でもあります。

そういった中で、現在、岩波ホールや学士会館、山の上ホテルの休館、三省堂神保町店の建て直しなど、街の象徴的な場所が変化を迎えています。さらに、再開発事業や歴史ある個人経営店の閉業など、神保町のみならず千代田区全体としても過渡期を迎えていると感じています。だからこそ、この“今”を記録したいと、本プロジェクトに取り組むことにしました。

なぜ「神保町の生活史」なのかというと、そもそも「生活史インタビュー」とは、個人の人生やライフヒストリーを聞き取る社会学的手法であり、社会調査の一形態とも言えます。語り手の生い立ちから人生をたどり、“今”に至るまでを聞き取ることで、その人の“今”を集約し、街の“今”を記録するというものです。

モデルケースとしては、岸正彦先生の「東京の生活史（筑摩書房）」であり、この本を着想に、神保町で展開していきます。語り手としては、神保町に現在住んでいる・通っている方、過去に住んでいた・通っていた方を想定しています。

助成金については、チラシや冊子の印刷費、インタビュー謝礼、聞き手による原稿執筆・校正費などを含め、最大15回のインタビュー実施を想定し、申請しました。これらの活動を安定的かつ継続的に展開していくための基盤を整えることを目的としています。



Comment



委員 語り手の選定方法や協力体制について教えてください。

助成グループ 昨年は仲間内で企画を進め、noteで公開しました。現在は30～40名ほどリストアップしており、「お散歩神保町」（石川編集長）からの紹介や、これまでの人脈を活かしています。今後は公募で「語りたい人」を募り、応募多数の場合は選定を行う予定です。

委員 冊子の内容と印刷部数について教えてください。

助成グループ 専門性と親しみやすさのバランスを意識し、多くの方に読んでもらえる内容を目指します。1冊に5名分を収録し、全体で48ページ、1,000部を発行予定です。語り手にゆかりのあるカフェや飲食店などに設置します。

委員 聞き手の育成や参加体制について教えてください。

助成グループ 月1回の勉強会を開催し、「質的社会調査の方法」（有斐閣）を参考にマニュアルを作成しました。生活史インタビューの基本を踏まえ、実践的に学び、岸先生の資料も参考にしています。勉強会やオンラインでの相談を通じて情報共有を行い、無理なく参加できる体制を整えています。

委員 クラウドファンディングを使わなかった理由を教えてください。

助成グループ 今回は個人での実施となるため、初年度は助成金を活用することにしました。2026年度のZINE発刊ではクラウドファンディングを活用し、製本化して「文学フリマ」や「PASSAGE」で販売する予定です。まちサポでは営利活動が申請できないため、資金調達は活動内容に応じて使い分けています。

委員 シンポジウムのような場の予定はありますか。

助成グループ 現時点では未定ですが、熱量のある方々が集まるのなら挑戦してみたいと思いました。

委員 Zoomの通信費ははに使用しますか。

助成グループ 遠隔地の語り手とのオンライン取材に使用します。無制限に利用できる環境を整えるための費用です。

委員 この活動に協力されている石川編集長の思いを聞かせてください。

石川編集長 この企画は個人の人生をまとめる壮大なプロジェクトです。2年前に話を聞いたときは驚きましたが、同時に強くワクワクしました。お店紹介はスポンサーが付きやすいですが、この企画はそうはいきません。だからこそ、こうした場で協力いただけるのは本当にありがたいです。重要なプロジェクトになると確信していますし、紹介したい語り手もたくさんいます。

10 番町ファミリーハウス 事務局

「ゆたかな時間」
by 番町ファミリーハウス

【代表者】 佐藤 洋平 【主な活動地域（場所）】 番町地域

活動概要

親と子それぞれが自身の時間を豊かに過ごせる「第三の居場所」を創出します。子どもには地域食堂と学習支援を通じて健やかな成長と心理的安全性を支え、保護者には気軽に相談・交流できる場を提供することで、親子のための居場所づくりに取り組みます。

発表概要

応募の背景としましては、私が父親になったことをきっかけに、某団体で子ども向けイベントの企画・運営に携わるようになりました。その活動を通じて、番町・麴町エリアには家族向けの居場所が少ないことに気づき、このグループを立ち上げました。

千代田区全体としても住民の入れ替わりが激しく、番町・麴町地域でも新住民の方、特に外国籍の方が増えてきています。そうした背景もあり、家族や子育て世帯の間で十分なコミュニケーションが取れないという課題を感じています。また、全国的に共働き世帯が70%を超える中、子育て環境もここ数十年で大きく変化していることを実感し、今回の応募に至りました。

活動内容としては、応募申請書に「料理」と「英会話」を中心とした活動と記載しましたが、応募後に改めて考え、まちサポグループの皆さまにもぜひご協力いただきながら、大人向け・子ども向けのイベントを展開できればと考えています。

具体的には、子どもと大人が適度な距離を取りながら、それぞれの時間を過ごせるような場をつくります。放課後やちょっとしたスキマ時間を有効に活用することで、子どもたちの健やかな成長や心理的安全性を支えることができると考えています。子ども向けには「生涯学習」を、大人向けには「親同士のコミュニケーション」や「悩みの共有・解消」の場を設け、子どもにも大人にも「サードプレイス」を提供することが、「番町ファミリーハウス」の目指す姿です。

子ども向けプログラムについては、代表である私が担当し、大人向けについては副代表の保健師・高橋さんと連携して進めていきます。

プログラムについては、今年から活動を開始し、毎月1回の定期開催を予定しています。



これまで私は「番町・麴町タウンミーティング」という活動を継続的に実施してきましたが、地域の声を聞く中で、子育てに関する課題が最も重要であると強く感じました。まず、一度実施してみることから始め、これまでの交流の場から得たアイデアをもとに、それを実際に形にしていこう一年にしたいと考えています。まちサポの3年間を通じて、これを具体化し、子どもたちと家族の居場所をしっかりと作っていきたいと思います。

応募の理由と背景

応募の理由	課題意識
親子のための居場所づくりに挑戦	コミュニティ形成のソフト面の重要性
プロトタイプ建立の初期投資として助成金活用	人と人が繋がるソリューションが不可欠



グループ設立の経緯と実績

設立経緯	これまでの成果
「番町麴町タウンミーティング」を通じて地域課題を明確化	地域課題の可視化と共有
課題意識を共有するメンバーが集結	「子育て世代へのソフト面の支援」ニーズ発見
	「対話から実践へ」のステップへ



活動内容 - 番町ファミリーハウス

子ども向け	保護者向け
料理と英会話の「食×学び」プログラム	保健師によるコミュニケーション・交流の場
読書や宿題ができる「夏守りスペース」	悩みから解放され、学びや共感を育む時間

プログラム後：全員で料理を囲み、家族と地域の交流を育む



Comment



委員 開催場所の考え方と事業コンセプトブックについて教えてください。

助成グループ 今回のテーマは「ファミリー」で、家族で過ごす時間として「食事」に着目しました。学童と子ども食堂の仕組みを組み合わせるため、調理室と集会室の両方が必要となり、レンタルキッチンを選びました。まずは半年間、月1回の開催で反応を見ながら土台を築いていきます。活動内容はホームページだけでなく、安心感を持ってもらえるよう冊子として手渡す予定です。チラシを合わせて数百部単位で印刷し、関係団体にも配布します。

委員 プログラムの対象や区が実施する子ども向けイベントとの違いを教えてください。

助成グループ 対象は小学生以上で、子どもだけ・大人だけの参加も可能です。区のイベントは午後5時頃に終了することが多いですが、私たちは午後2時～8時まで開放し、長時間の居場所づくりを目指します。“個食”や“鍵っこ”になりがちな家庭環境への課題意識を持ち、食事を通じて親子の接点を増やすことを大切にしています。食事ができるまでの時間には、子ども向けの生涯学習と並行して、大人向けのワークショップを開催。最後は子どもも大人も一緒にご飯を食べて帰る流れをつくり、それぞれが安心して過ごせる居場所を提供します。

委員 運営体制と親子の関わりについて教えてください。

助成グループ 副代表の高橋さんは九段中等教育学校のPTA経験があり、メンタルケアや子育て支援にも長年携わってきました。地域の保護者の方々から「得意なことを活かして手伝いたい」という声も多く、そうした方々とも協力していきます。また、親子の接点はとても重要だと考えており、今回の事業でも親子が一緒に過ごす時間や関わりを意識したプログラムづくりを進めています。今後さらにその部分を強化していく予定です。

ジェンダー eye

ジェンダーに関わる居場所づくり

【代表者】 我孫子 綺葉 【主な活動地域（場所）】 千代田区全域

活動概要

ジェンダー問題に関する、日常の中で感じる小さな疑問や気づきを安心して共有し、対話を通じて相互理解を深める場を提供します。活動を通じ、地域に根差した交流を育みながら、ジェンダーに関する課題への理解と共感を広げていきます。

発表概要

「ジェンダー eye」は、ジェンダーに関する問題を“お互いの視点を共有し、理解し合うこと”、そして“違和感を見て見ぬふりしないこと”を大切にしたいという思いから、“eye(眼)”をグループ名に取り入れました。同じ課題意識を持つメンバー 3名で立ち上げたグループです。

世界的に見ると、日本のジェンダーギャップ指数は、146か国中118位と、厳しい状況にあります。^(※1)

一方、千代田区でも、千代田区男女平等協働参画センター（以下、「MIW」という。）の認知度がどの年代においても低いこと、現場と行政の間に距離感があること、そして、悩みを安心して共有できる場が少ないことが、特に大きな課題として浮かび上がっています。^(※2)

私たちの活動には、2つの目的があります。ひとつは、ジェンダー平等の推進につながる取り組みとして、MIWへ団体登録を行い、協同活動を通じてMIWの認知度向上に貢献すること。そして、活動を通じて得た知見や課題を行政に届け、現場と行政をつなぐハブとしての役割を果たすこと。もうひとつは、地域活性化につながる取り組みとして、地域を巻き込んだ居場所づくりを進め、地域に根差した交流を生み出す活動です。

具体的な活動としては、千代田区でジェンダー問題に課題意識を持つ人々を対象に、対話を通じて相互理解を深め、解決の糸口を探る場づくりを目指します。活動の柱は、「テーブルトーク」と「情報発信」の2つです。「テーブルトーク」は、イギリスのカフェ発祥の、孤立感を解消する居場所づくりの手法です。カフェのテーブルに「TABLE TALK」と書かれたPOPを置くことで、「誰かと話したい人が座る席」というサインになり、見知らぬ人同士が気軽に会話が始められる仕組みです。この手法を応用し、千代田区内の飲食店や書店などで、ジェンダーに関するテーマを設定した対話の場をつくります。また、「情報発信」としては、イベントの開催に加え、通信紙の発行やSNSを通じて、ジェンダーに関する情報や活動報告を発信していきます。

HP



Instagram



※1 朝日新聞SDGs ACTION! 【ジェンダーギャップ指数】参照
<https://www.asahi.com/sdgs/article/15836643>

※2 千代田区第6次千代田区ジェンダー平等推進計画
「第5次千代田区男女共同参画計画の進捗状況及び評価結果（第6章）参照
<https://www.city.chiyoda.lg.jp/documents/1971/byodo6-3.pdf>

①ターゲットと概要

千代田区でジェンダー問題に課題意識を持つ人々

対話を通じて相互理解を深め
解決の糸口を探る場づくり

12

②実施内容

テーブルトーク

- トークテーマを設定し、参加者を募集
- 場所
千代田区内の飲食店や書店
- 実施頻度
3か月に1回実施（初回9月予定）

情報発信

- イベントの実施
- 通信紙の発行
- SNS発信

13

③お願い

テーブルトーク実施場所の
ご協力いただける店舗を大募集中！

ご協力いただける方は
こちらまでご連絡ください↓
gendereye2025@gmail.com



14

Comment



委員 初対面の方とジェンダーの話をするのは難しそうですが、どのように進めていきますか？

助成グループ 少人数での対話を基本に、安心して話せる雰囲気づくりを大切にしています。会場は開放感がありつつプライバシーが守られる場所を選び、事前に注意事項を共有することで心理的安全性を確保しています。

アドバイス 募集型の場づくりだけでなく、地域に出向いて丁寧に伝える活動も重要です。伝えることを重視しながら、区内の団体と連携して広がっていきましょう。

アドバイス 開かれた雰囲気、地域とのつながりを感じられる場所を選ぶことが大切です。活動がより効果的に進められるよう、まちサボグループとのつながりもぜひ大切にしていってください。

委員 トークテーマは事前に告知されますか？

助成グループ 1回目は、「男らしさ・女らしさってなんだろう？」など、誰でも参加しやすいテーマから始めます。今後は職場におけるジェンダーなど、すでに社会の中で定まった議論があるテーマにも展開していきたいと考えています。

12 サードキッチン ちよだ

千代田区に感謝や助け合いで
“つながる”場をつくり、
多世代が交流する
「偶発的な人との交差点」となり得る
ラウンジのような
サードプレイスを提供する

〔代表者〕 上田 けい 〔主な活動地域（場所）〕 神田地域

活動概要

地域のつながりを育むため、全年齢対象の“つながる食堂”で無料の食事と感謝の交流を提供します。人とのつながりを育み、安心して過ごせる“居場所”を地域に広げていくことを目指します。

発表概要

私たちは、千代田区主催の若者・女性会議「ちよだイズム倶楽部」で出会ったメンバーで結成したグループです。代表の私は、神田錦町で「CLOVER CLUB」を経営しており、普段はイベントでカクテルを提供したり、錦町三丁目第一町会の町会員として地域のイベントに参加しています。

千代田区のまちに対して、住民同士の関係性が希薄であること、気軽に参加できる「サードプレイス」が不足していると感じてきました。そこで私たちは、地域のコミュニティを活性化させる活動として、感謝と助け合いをテーマにした“つながる食堂イベント”を開催したいと考え、千代田まちづくりサポートに応募しました。

活動内容としては、全年齢を対象に、カレーなどの温かい食事を無料で提供します。既存の「子ども食堂」との違いは、年齢制限を設けず、感謝を伝える工夫をすることで、つながりの場をつくることです。無料で食事をされた方には、感謝の気持ちを込めたメッセージを書いていただきます。そのメッセージは写真として記録し、SNSに掲載することで、いつでもどこにいても感謝のメッセージを読むことができる仕組みをつくりまします。許可をいただいた方とは、一緒に感謝のメッセージプレートを持って記念撮影を行い、活動の記録として発信します。これにより、いつでも感謝のメッセージを見ることができ、誰かの役に立てたことを実感し、自分の居場所を感じられる機会を提供します。

また、イベント内にはドリンクブースを設置し、来場者がドリンクを購入することで、楽しみながら活動を応援し、気軽に支援者になっていただける仕組みも導入します。ドリンクブースでは、近隣の飲食店とのコラボレーションを想定しており、千代田区の飲食店を知っていただく機会を作ります。

この活動を通して、地域の人々が実際につながり、やさしさや思いやりを感じる「安心できる居場所」をつくり、千代田区の魅力的な都市環境づくりに貢献したいと考えています。これまで、自分が受けて来た優しい気持ちを、次は自分が他の人にやさしくすることで恩返しができる場ができれば嬉しいです。



Instagram



Comment



委員 ドリンクブースの価格設定や開催時間、次年度以降の活動経費について教えてください。

助成グループ ドリンク料金は、500円～1,000円を想定しています。第1回の開催は、9月13日（土）12時～15時を予定しており、昼間ですが、可能であれば、お酒の提供も考えています。次年度以降の活動経費については、イベント内で収支がプラスマイナスゼロになるよう調整していく予定です。初回の開催結果をもとに、必要な杯数や単価などを検討し、継続可能な仕組みを構築していきます。

委員 カレー以外にも食のテーマを広げることで、地域の多様な人が集まりやすくなると思います。地元の懐かしい味や記憶に残る献立を取入れることで、昔からの住民と新しい住民との交流が生まれる可能性もあります。そうしたプログラムの選択肢を増やしていくことについて、どのようにお考えですか。

助成グループ 地元の酒屋やメーカーとのつながりを活かして、コラボレーションしたいと考えています。昔ながらの飲食店とも、今回の活動をきっかけに関係を築きたいと思いました。

委員 開催頻度を教えてください。

助成グループ 年1～2回のペースを予定しています。

委員 千代田区には、カレーやパスタなどを製造している飲食系メーカーが多くあります。そうした企業から物品協賛を受けて活用することで、活動の継続性を高めることができると思います。無料提供を前提とした食堂活動は、継続が難しい面もあるため、地域企業をパートナーとして巻き込む仕組みづくりが重要です。ぜひ積極的に発信し、企業からの協賛を得ながら活動を続けていってください。

助成グループ ありがとうございます。

13 番町LOVER'S

番町地域に暮らす住民同士がつながり、
交流する機会をつくることで、
地域の力を高め、
世代を超えたつながりを育みたい

【代表者】 上野 恵子 【主な活動地域（場所）】 番町地域

活動概要

番町地域で、住民同士が自然に挨拶できる関係づくりを目指し、食やカルチャーを通じた交流の場を提供します。医師の視点を活かし、身近な健康課題をきっかけに、病院に行く前の相談の場づくりにも取り組み、若い世代にも届く活動を展開していきます。

発表概要

代表の私は、第16回・第17回の「番町麴町地域の人々のための居場所作りの会」をサポートさせていただきました。実際に参加することで、まちの代表の方や長く住まわれている方、若い世代の方々と交流することができ、とても貴重な経験になったと感じています。その後しばらくして、副代表の清水さんからお声がけいただき、現在は代表を務めておりますが、これからも陰ながら応援し、地域のつながりを支えていきたいと考えています。



副代表の清水です。番町地域も例外ではなく、高齢化が進んでいます。加えて、人の出入りが多く、マンションの増加により、現在では約95%がマンション住民と言われています。住民の皆さんは、番町というまちが好きで暮らしているという共通点はあるものの、互いに知り合う機会が少なく、つながりが希薄になりがちです。

他のグループでもお話がありましたが、町会への参加は「ハードルが高い」と感じる方もおり、そうした面も否めません。だからこそ、住民同士がまちですれ違ったときに、自然に挨拶ができるような関係性を築くきっかけをつくりたい。そして、若いお母さんたちともつながれる場をつくりたいと考えています。

現在、活動内容はまだ漠然としています。代表が医師であるため、医師の視点や住民の声をもとにテーマを設定し、まずは助成金5万円を活用して、年に2回ほどの試みとしてスタートしたいと考えています。

対象エリアは、番町地区（一番町～六番町）を中心に、麴町や九段など、道を挟んだ周辺地域も含めています。食・音楽・カルチャーなどを通じて、番町の歴史や人物に触れることと、心と体を整える都市生活のヒントをテーマに活動していきたいと考えています。

番町地区交流・勉強会のご案内
～まちを知り、人とつながり、未来をつくる～

- ・ 対象エリア：番町地区（一番町～六番町）+周辺地域
- ・ 目的：交流会・勉強会の開催を通して、参加者の方々の交流とまちへの理解を深めることで番町への愛着を深めてもらう。



どんなことをやるの？
～テーマ案 アイデア～

- ▶ 若い世代も関心を持てる“新しい切り口”
食・音楽・カルチャーなどを通じて番町の歴史や人物に触れる
例）「番町とクラシック音楽の知られざる関係」
目的：多世代参加のきっかけづくり
- ▶ 都心ならではの“健康的な暮らし”
心と体を整える都心生活のヒント
例）「皇居ランナーが語る、番町エリアの魅力」
目的：日常に役立つ内容で継続的な関心を生む

Comment



委員 若い世代との交流は難しい面もあると思いますが、そうした方々をこの活動に引き込むための工夫はありますか？

助成グループ 告知の方法が重要だと考えています。私自身まちの情報は買い物帰りに掲示板で得ることが多く、まちサポの助成を活用してポスターを掲示し、どのような方が来て下さるかを試してみたいと考えています。

委員 会場はどちらを予定されていますか。

助成グループ 六番町の「カフェ・アマルフィー」や、費用のかからない麴町区民館を検討しています。

委員 すぐには難しいとは思いますが、集合住宅の集会室なども活用できると良いと思います。関係機関との調整も視野に入れてはどうでしょうか。

助成グループ はい、そちらも考えてみたいと思います。

委員 10年ほど前、東京大学の近くでイベントを開催した際、コーヒー屋台の店主の方が、実は東京大学の医師で、人とのつながりや出会いをつくり、病院に行く前の段階で相談できる場を提供されていました。代表が医師ということなので、医師としての視点からそういった活動もできるのではないかと思います。

助成グループ 若い世代とのつながりは簡単ではありませんが、まずは40代の方を中心に活動を広げていこうと考えています。たとえば「大丈夫？」というようなテーマで、睡眠時無呼吸などの身近な健康課題をきっかけに、病院に行く前の相談の場をつくれたらと思っています。私自身、番町で小さなクリニックを続ける中で、病気の怖さや気づきの大切さを感じてきました。医師として地域に貢献したい気持ちはあるので、告知の方法を工夫しながら、お母さん世代や若い方にも広げていけたらと考えています。

安井建築設計事務所 音楽サークル

文化芸術振興による
まちの賑わい創出

【代表者】 富田 直希 【主な活動地域（場所）】 神田地域



サントリーホールピアノをお迎えしました



私たち、安井建築設計 音楽サークル



一緒にまちを盛り上げましょう！

活動概要

安井建築設計事務所の地域にひらかれたスペースを活用し、音楽イベントなどを通じて、まちに賑わいを引き込みます。ジャズやクラシックの演奏、地域とのコラボ企画などを通じて、まちの人の「やりたい」を形にし、区民とともに主体的に関わる、まちぐるみの活動を展開していきます。



発表概要

私たちは建築設計を本業とする会社です。創業100周年という節目を迎えた1年前、神田美土代町へオフィスを移転しました。「人やまちを元気にする」というコーポレートメッセージのもと、新しいオフィスの1階は、一般の方も入ることができる“まちにひらかれた”スペースとして活用しています。まちを元気にできるのであれば、建築に限らず、という思いから、餅つき大会や綱引き、神田祭では休憩所としてスペースを提供するなど、地域とつながるさまざまな活動を行ってきました。

そんな会社の中には、愉快的な音楽仲間たちがいます。移転前に有志で音楽会を企画したところ、思いのほかメンバーが集まりました。そこには、役職・上下関係・性別といった垣根はなく、音楽を通じて自然とフラットな関係が築かれています。

そんな音楽のつながりが広がるなか、今年3月、サントリーホールで使用されていた「1号機」のピアノをお迎えすることになりました。これは、サントリーさんとの信頼関係や、社内に多くの音楽好き社員がいたことなど、いくつかの偶然が重なって実現しました。この特別なピアノをまちの人たちと共有したいと考えています。

活動内容としては、移転前から続けていたクラシックコンサート「平河町ミュージックス」は、「平河町ミュージックス in 神田」として継続します。さらに、音楽と何かを掛け合わせたコンテンツとして「ジャズとアイスクリーム」というサントリーホールから譲り受けたピアノを活用するイベントを計画しています。ジャズ奏者によるライブ演奏を行うほか、「街を溶かす」をコンセプトにしたアイスクリーム店「Tokuru」とのコラボ出店も予定しています。休日のオフィス街に音楽のにぎわいを呼び込み、まちに新たな魅力を生み出す試みです。当日のライブの様子は動画撮影し、後日SNSで配信することで、参加できなかった方にもまちの魅力をお届けしていきます。

そのほか、音楽の街・御茶ノ水にも近い立地を活かし、今後は近隣の楽器店とイベント告知をし合ったり、音楽イベントと連携したり、まちぐるみで地域を活性化していくことを目指しています。

Instagram



@MITOSHINO_CREATIVE_DISTRICT

Comment



委員 将来的に、活動に区民の方を巻き込むことは考えていますか。

助成グループ ぜひ、参加していただきたいです。理想としては、場所を提供するだけでなく、区民の方が主体的に活動されている場に、ご一緒させていただくような関わり方が理想です。

委員 会社としても活動をサポートされていますか。

助成グループ 会社ぐるみで活動をサポートしてもらっています。ただ、会社の支援を受けることで、「会社のために」という方向に偏ってしまうこともあり、最初目指していた“まちのため”という思いとズレが生じることがあります。そのため、会社以外の助成なども活用しながら、よりダイレクトに地域のためになる活動を目指していきたいです。

委員 出張演奏をお願いすることは可能ですか。

助成グループ 他のグループの発表を拝見していて、活用していただけたらいい場面があると思いました。ぜひ、お声がけいただければ嬉しいです。



委員
あかうみ けんすけ
赤海 研亮

千代田区 地域振興部コミュニティ総務課長

各グループの提案も、コミュニティ形成に効果が期待できる内容で、前向きな印象を受けました。自律的な運営や費用面、担い手の継続などが共通の課題として挙げられましたが、課題ばかりにとらわれず、まずは思い切ってチャレンジすることが大切です。壁にぶつかった時は、私たち区も含め、ぜひご相談ください。皆さんの活動がさらに発展していくことを願っています。



委員
たに まりこ
谷 眞理子

元「千代田区青少年委員会会長」

皆さんの発表を聞きながら、私自身も昔のことを思い出し、審査員という立場を忘れるほど楽しい時間でした。これからもその熱意を大切に、ますます活動を続けていただきたいと思います。



委員
たかま てつや
田熊 哲也

興産信用金庫 地域支援部
お客様支援課 地域振興担当課長

テーマは違っても、地域課題に向き合う工夫や熱意が伝わり、私自身も新たな気づきを得ることができました。団体同士の連携にも可能性を感じており、今後の広がり期待しています。満額に届かなかった団体も、他団体との協力で乗り越えられるはず。この発表会が、地域をつなぐきっかけになることを願っています。



委員
たかみち まさし
高道 昌志

東京都立大学 都市環境学部
都市政策科学科 助教

まちづくりに本来、優劣はありません。ただ今回は審査という形式の中で、数字として結果が出ることになりましたが、あくまで一つの通過点として受け止めていただければと思います。ここから第25回サポート事業が始まります。私自身もプレイヤーの一人として、さまざまな形で互いに刺激を受けながら、千代田区を盛り上げる仲間として一緒に協力していけたら嬉しいです。



委員
ほし さとる
星野 諭

(一社) 移動式あそび場全国ネットワーク
代表

人は「欠け」があるからこそ、互いに補い合い、つながることができます。まちづくりも同じで、できないことを助け合いながら、仲間とネットワークを育てていくことが大切です。自分たちらしさや「好き」という気持ち、信じる力を共有することで、楽しいまちづくりをしていきましょう。今日は審査会委員ですが、私もプレイヤーの一人です。一緒にコラボしていきましょう。



副会長
みとも なな
三友 奈々

日本大学 理工学部 助教

私が研究している「居場所づくり」に関わる取り組みが多く、大変興味深く感じました。まちづくりは一過性のイベントではなく、継続していくことが大切です。私の考える居場所づくりは、身の丈に合った、無理のない、そしてお金のかからない形が基本です。今回の助成金は、活動の滑り出しや動き出す力として、ぜひ有効に活用し、長く続く取り組みに育てていただければと思います。



委員
せき まゆみ
関 真弓

NPO法人都市住宅とまちづくり研究会
理事長

一つの団体だけでは限界がありますが、団体同士が掛け合わさることで、相乗効果が生まれ、活動の広がりや課題の共有が可能になります。まちづくりは掛け算です。つながることで、解決の糸口や新しい展開が見えてきます。卒業グループや地域の組織など、広く目を向けて、ワクワクしながら取り組んでください。私もまちに帰れば一団体の一員ですので、お声がけいただけると嬉しいです。



会長
ごとう ちかこ
後藤 智香子

東京都市大学 環境学部 環境創生学科 准教授

久しぶりにこの場に立ち、改めて「この仕組みがあって良かった」と強く感じています。昨年度は見直しの議論があり、さまざまな意見が交わされましたが、「大事な事業である」という共通認識のもと、委員の皆さんと意見交換を重ねて、この公開審査会が復活しました。今では多くの自治体が書面審査のみで実施しており、公開審査会を行うところは少数派です。それでも、時間と手間をかけて、グループの皆さんと直接対話しながら考えるこの場には、大きな意味があると感じています。審査会委員とグループという関係だけでなく、グループ同士、運営事務局とのつながりも生まれる場です。ぜひこの機会を活かして、活動の幅を広げ、地域に根づく取り組みに育てていただければと思います。この場で生まれたご縁を大切にしながら、楽しみながら活動を続けてください。皆さんの今後のご活躍を心より期待しています。お疲れさまでした。

Photo album | 公開審査会写真集



法人会員

建設業	株式会社楠山設計	不動産業	株式会社AZWAY
	株式会社久保工		NTT都市開発株式会社
	株式会社竹中工務店		東京建物株式会社
	(一社) 東京都建築士事務所協会 千代田支部		プラットフォームサービス株式会社
	株式会社ナカノフドー建設		三菱地所株式会社
製造業	日産緑化株式会社	サービス業	安田不動産株式会社
	株式会社イガラシ		株式会社アール免震
	株式会社イサミヤ		株式会社i-tec24
	瀬味証券印刷株式会社		株式会社弘周舎
	東京スクリーン株式会社	その他	株式会社インフィニティエージェント
	株式会社日精ピーアール		石塚株式会社
	日本たばこ産業株式会社 渉外部 東京担当		株式会社グリーンエコエナジー・アセットマネジメント
	ノーラエンジニアリング株式会社		株式会社コンベンションリンケージ
	ハネクトーン早川株式会社		株式会社TALO都市企画
	株式会社ムレコミュニケーションズ		株式会社TMMC
	有限会社メカノトランスフォーマ		一般社団法人千代田区観光協会
	ヤマノ印刷株式会社		東洋美術印刷株式会社
	LightBank株式会社		NPO都市住宅とまちづくり研究会
卸売・小売業	鈴木治作株式会社		株式会社バイオレンジャーズ
	鈴新株式会社		ビヨンドネクストアカウンティング株式会社
	株式会社トキワ		株式会社フィレール
	株式会社ユニフォームネット		株式会社mitsuki
情報通信業	コンプライアンス・データラボ株式会社		株式会社メイクワン
	株式会社メディアリンク		株式会社リブリッジ
	ソホビービー株式会社		株式会社アレップス
金融業	株式会社きらぼし銀行 神田中央支店		株式会社ネクセライズ
	興産信用金庫	個人会員	池 俊郎
	西武信用金庫 神田支店		伊澤 優
保険業	株式会社FEA		加藤 武夫
	ぜんち共済株式会社		小林 誠
			佐藤 直樹
			瀬川 昌輝
			堀部 剛正
			他5名

法人：56 個人：12 計68

※助成金の一部は賛助会員からの賛助金が活用されています。

千代田まちづくりサポート通信 No.44 発行 2025年10月

発行者 公益財団法人まちみらい千代田 協働まちづくり・総務グループ（まちづくりサポート運営事務局）
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階
URL <https://www.mm-chiyoda.or.jp> TEL 03-3233-7556 E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp



まちサポ
特設サイト



この冊子は環境にやさしいFSC®森林認証紙を使用しています。